



2026年3月16日

各 位

会 社 名 Terra Drone 株式会社  
 代表者 代表取締役社長 徳重 徹  
 (コード番号 278A 東証グロース市場)  
 問合せ先 取締役 関 鉄平  
 (TEL. 03 - 6419 - 7193)

## 業績予想値と決算値との差異及び特別損失（減損損失）の計上に関するお知らせ

当社は、2025年12月15日に公表した2026年1月期（2025年2月1日～2026年1月31日）の連結業績予想値と、本日公表の実績値において差異が生じ、また、連結決算において特別損失（減損損失）を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2026年1月期の連結業績予想値と実績値の差異

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する当期 純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	4,284 ～4,470	△1,488 ～△1,266	△1,267 ～△1,046	△2,799 ～△1,697	△291.58 ～△176.78
今回実績 (B)	4,782	△1,143	△1,284	△2,327	△242.44
増減額 (B - A)	312 ～498	123 ～345	△238 ～△17	△630 ～472	△65.66 ～49.14
増減率 (%)	7.0 ～11.6	—	—	—	—
参考： 前期連結実績 (2025年1月期)	4,435	△627	△606	△474	△56.73

#### 2. 2026年1月期の連結累計期間の業績予想値と実績の差異理由

##### (1) 売上高および営業利益（業績予想を上回る着地）

連結子会社であるPT Terra Drone Indonesia（以下「TDID」）において、売上高が当初の想定を大きく超過いたしました。2025年12月15日公表の業績予想において、TDIDで12月9日に発生した火災事故の影響を鑑み、業績予想を相応に保守的に見積もっておりましたが、結果としてオペレーションが想定より円滑に進捗したこと等により、売上高および営業利益は前回発表予想のレンジを上回る着地となりました。

##### (2) 経常利益（業績予想を下回る着地）

持分法適用関連会社であったAloft Technologies, Inc.（以下「アロフト社」）の子会社化の中止および第三者への保有株式の譲渡に関連し、2025年12月15日公表の業績予想においては販売費及び一般管理費および特別損失の発生を見込んでおりましたが、その後の精査および監査法人との協議の結果、当初特別損失として見込んでいた項目の一部（289百万円）を営業外費用として計上することとなりました。この計上区分の変更（特別損失から営業外費用への振替）により、(1)で述べた営業利益段階での上振れ分が相殺されたため、経常利益は前回発表予想のレンジを下回る着地となっております。

なお、本件の詳細につきましては、本日公表の「(開示事項の経過)持分法適用関連会社Aloft Technologies, Inc.の異動(株式譲渡)および特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

### (3) 親会社株主に帰属する当期純利益（レンジ内着地）

親会社株主に帰属する当期純利益については、前回予想で見込んでいた各種特別損失（TDID 火災事故関連、アロフト社関連、投資有価証券および Unifly NV の固定資産減損）に加え、次項の TDID 固定資産の減損損失を新たに計上いたしました。

しかし、これら第 4 四半期に発生した特別損失の合計額が前回公表の想定範囲内に収まったことにより、最終的な利益は前回発表予想のレンジ内での着地となっております。

### 3. 連結子会社（PT Terra Drone Indonesia）における減損損失の計上

当社は、連結子会社である TDID の固定資産について、今後の事業計画を再評価いたしました。その結果、会計上の判断に基づき、将来の回収可能性を考慮して、今般の火災に関連する直接的な損失とは別に、399 百万円の減損損失を特別損失として計上いたしました。

なお、当該減損損失は会計上の判断に基づく、キャッシュアウトを伴わない一過性のものです。上述の通り TDID における現場のオペレーションへの影響は限定的に留まっており、主要な事業活動および顧客サービスは通常通り継続しております。

以 上